

## (十二) 皆野・親鼻界限(続)

親鼻の銃撃戦 親鼻駅入口から親鼻橋方向に行き、扇原商店(元角屋旅館)前から左に荒川に下りると、右側に宝曆二二(一七六二)年銘馬頭尊と地藏尊・道祖神の石造物があります。この先が親鼻の渡し場跡です。

三日午後三時頃の「親鼻の銃撃戦」の現場は、困民党軍側が渡し場跡と皆野長瀬水道企業団「皆野中継所」間の荒川右岸上の崖地、憲兵隊側が対岸の河原でした。現在川幅はこの辺で狭くなっており、地形図の距離は約五〇メートルです。

栗谷瀬の渡 角屋の道標「左三十四番・妙義・はるな(榛名)道」、角屋脇の一九一九年皆野村青年団建立の道標(右、皆野村字栗谷瀬通り)が、栗



(栗谷瀬渡し跡碑と渡し場への道)

谷瀬渡し場へ行く道でした。分かりにくいところもありますが、途中「巡礼石」があつたりして、容易に渡し場跡に辿りつくことができます(この道筋の図は『皆野町誌 通史編』に出ています)。

渡し場下り口の手前、道の左側に「栗谷瀬渡し跡」碑があり、下り口を右に行くと、「金子総太郎遭難碑」があります。

金子総太郎は、栗谷瀬渡しの船頭でしたが、一月五日、暴徒と誤認され、「遭難碑」がある場所で、桶川署粕谷巡查に惨殺されました。円明寺に「賢覚臨勝信士、行年三二歳」の総太郎の墓があります。

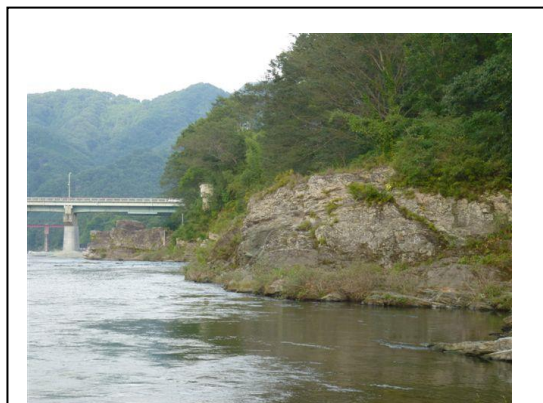
この事件について、遺族は不当さを訴えましたが、県警鎌田警部は「本人出張中なるをもつて等閑に付す」(「鎌田沖太出張経歴書」)との態度でした。

この時、粕谷巡查は山中谷から十国峠を超え、東馬流まで困民党軍を追撃中でした。

大塚古墳辺の銃撃戦 先に見たよう

# 皆野町の秩父事件②

(親鼻銃撃戦の現場)



に、四日午後、皆野本陣から主要幹部の何人もの「離脱」により「皆野本陣」は解体し、一隊は、本野上から出牛峠を超え八幡山方面へ、一隊は信州に向うべく下吉田方面へ去りました。その結果、「五時半頃皆野から困民党軍の姿は見えなくなりました」(「秩父暴徒関係書類③」)。

ところが、五日前、「皆野村端」(皆野村外れ)で困民党軍と憲兵隊との間で「銃撃戦」があつたとの記録が残されています(「茨城暴徒事件綴込」他)。

五日午前五時、東京鎮台兵は憲兵隊・警官隊とともに荒川両岸に分かれて大宮郷に向けて出発、両隊は皆野で合流しました。

八時頃、「賊途」七、八百人(別の報告では四、五百人)に遭遇、銃撃戦になりました。鎮台・憲兵隊は百数十名

## 西武秩父線 公共交通を守つて!

4月2日、日本共産党塩川衆議院議員と埼玉県議団、秩父郡市議員団、所沢市議団、飯能市議団は、国土交通省に「西武秩父線は通勤、通学、観光、買い物など生活になくてはならない現状を訴え、公共交通を守るように要請しました。

(別の報告では百余名)を生け捕りにし、一〇時一五分、鎮台・憲兵隊一行は大宮郷に入りました。

春田憲兵少佐は「これ多くは附従者ならん」と言っていますが、これだけ多くの人が、どこにいて、何をしようとしていたのか。捕まった一〇〇人以上の者はその後どうなったのか、研究課題だと思えます。



(大塚古墳)

## 新米議員のひとりごと

常山 知子

「西武秩父線が廃止になる?」“寝耳に水”とはこのことか?信じられない思いです。

私が就職の為、上京した時はまだ西武線は池袋から吾野まででした。

東京へ出かけるには、秩父鉄道、そして東武東上線、または熊谷から高崎線に乗り換えて……

それからのち、正丸峠トンネルが開通して秩父までレフトアロー号が行くようになると、東京に住んでいた私は実家が近くなった気がしました。

職場が池袋にあつたので、私の住まいは西武池袋沿線から一度も離れたことはありませんでした。

現在、秩父から東京へ行くときは西武秩父駅から、時にはレフトアロー号に乗って……

通勤、通学、買い物にまた観光など西武秩父線は、秩父に住む私たちにとって欠くことのできない大切な公共交通になっています。

利益だけが波及され、もうけの無いところは容赦なく切りすてる。そこに地域の人々の大切な営みがあっても、こんなことが許されるでしょうか。